

▶夏の研修報告(全国大学部会研究集会、
中小規模学校連携協力懇話会、キリスト
教活動担当事務職員研修会、大学新任
教員研修会、東北・北海道地区新任教師
研修会、関西地区大学部会研究集会、
全国事務局長・事務長会議)〈2~4面〉
▶公募・行事予定 〈3面〉
▶平安女学院創立150周年 〈4面〉
▶全国広報委員会 〈〃〉
▶聖書のことば 〈〃〉

キリスト教学校教育 11

2024・2025年度教研テーマ
新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯—いのちの輝きと平和を求めて—

http://www.k-doumei.or.jp
E-mail info@k-doumei.or.jp

(一社)キリスト教学校教育同盟
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館72号室
電話 03(6233)8225
FAX 03(6233)8226
理事長 西原 康太
編集人 豊川 慎
定価200円(加盟法人の購読料は会費に
含まれています)(毎月1回15日発行)

2025年夏の研修報告

第15回 中堅事務職員リトリート

「建学の精神」の継承のために

8月21日(木)〜22日(金)、同志社大学今出川キャンパスにて開催(参加者34名)

今年度の中堅事務職員リトリートには、加盟19法人から29名、実行委員5名、計34名が参加しました。

1日目は開会礼拝に続き、同志社大学神学部・黒柳志仁先生によ



黒柳志仁氏

る主題講演「世界の紛争と宗教・旧約聖書の平和思想を中心にして」が行われました。



李元重氏(詩碑前での解説)

2日目には、同志社大学キリスト教文化センター・李元重先生による特別講演「なぜ同志社に尹東柱の詩碑が

あるのか」をお聞きし、同志社大学の建学の精神が、尹東柱の詩碑の建立という具体的ななかたちで実践されていることを学び、参加者自身が自校の建学の精神をどのように実践していくかということについて考えるきっかけを与えられました。



「黙想の時」では、同志社大学オルガニストの川崎寿美氏によるパイプオルガンの音色や同志社学生聖歌隊の歌声に耳を傾けながら、沈黙の中で自己を振り返り、内省する時間を持ちました。多忙な日常から離れたリトリートの場だからこそ得られる、心の静けさと深い気づきのひとときとなりました。



今年度から対象者を中堅層(在職5年以上)と中途採用者(社会経験5年以上)に広げたことで参加者が増え、豊かな交流を持つこともできました。この研修での学びと気づきがそれぞれの働きの場で活かされることを願います。会場校の同志社大学、ご準備くださった先生方に心より感謝申し上げます。

菅原真希
〈東北学院大学職員、中堅事務職員リトリート実行委員〉

関東地区 聖書科研究集会

信じて待つこと

8月21日(木)、日本聖話学校きこえの学校ライシャワー学園・農村伝道神学校にて開催(参加者16名)

午前に見学したライシャワー学園は重度の聴覚障がいをもつ子どもたちが生活する施設として日本で唯一、手話を一切用いずに教育を行う支援学校です。

鈴木実校長によれば、高度の難聴と診断された赤子はどんな音もまったく聞こえないという状態ではなく、幼い日から最新の補聴器を使用することで、ほとんどの子どもたちが聞く力を身に付けていくとのことでした。子どもたちが元気にメロディを口ずさみ、合唱する動画も拝見しました。学内では毎朝、補聴器のチェックを行い、特別に開発した音響設備の助けによって、主なる神から与えられた子どもたちの賜物が引き出されていくことを信じて待つ姿勢から、キリスト教教育についての大切なことを学ぶことができました。



農村伝道神学校にて

いのちの輝きと 平和を求めて



山本与志春

第67回学校代表者協議会
11/7(金)~8(土)
(学)青山学院で開催

2025年度の学校代表者協議会は、青山学院を会場として開催されます。全国のキリスト教学校の皆様、創立150周年を経て、新たな歩みを進める本学にお集まりいただくことは大きな喜びです。

本年度の主題は、「新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯—いのちの輝きと平和を求めて—」です。AIやグローバル化が加速する今日、子どもたちを取り巻く社会はかつてない速さで変化しています。分断や格差、戦争や環境破壊など、人間の尊厳が脅かされる現実の中で、キリスト教学校は今こそ、「いのちが輝く平和を求め」なければなりません。

主イエス・キリストは、

「あなたがたは地の塩、世の光である」と語ります。私たちの使命は、知識や技術を教えることにとどまらず、すべての人が神に造られ、愛されている存在であることを伝えることにあります。そして、その愛に根

拠る活動、国際交流などの実践を通して実を結んでいきます。児童・生徒・学生一人ひとりが、神の愛に根ざして自らを知り、他者と共に生きる力を養うこと、これは、すべてのキリスト教学校に通じる教育の本質でもあります。

青山学院は、創立150周年に掲げた「AOYAM VISION 160」において、「地の塩、世の

光」として生きるサーバント・リーダーの育成を新たな宣言しました。それは、与えられた力を活かして、他者に仕え、共に未来を創る人間を育てるという理念です。この理念は、日々の礼拝や授業、ボランティア

活動、国際交流などの実践を通して実を結んでいきます。児童・生徒・学生一人ひとりが、神の愛に根ざして自らを知り、他者と共に生きる力を養うこと、これは、すべてのキリスト教学校に通じる教育の本質でもあります。



情報交換会での交流



教室の様子を説明



鈴木校長の講演

加盟校動静

● 神戸女学院
創立150周年を迎え、10月12日(日)13時30分から記念式典がエミリー・ホワイト・スミス記念講堂で開催された。

● 久保哲哉
〈聖学院中学校高等学校チャプレン、聖書科研究集会委員〉

第12回 大学新任教員研修会

キリスト教大学とは

められていた。このことは現代のキリスト教大学における建学の理念として、世界・社会・隣人のために奉仕するという発想に繋がっていると思わされる。西原先生によれば、そのような奉仕をするために、我々はこの世界の「物語」に耳を傾けていく必要がある。ITの時代となった現代では無数の、そして様々な情報が飛び交っているが、それらはやがて消費されるものにすぎない。しかし、我々の教室での学生との出会いや交流、議論には、その場でしか味わうことのできない、かけがえのない物語が存在する。キリスト教大学では、こうした物語に命が吹き込まれることにより、多様な一人ひとりの存在が大切にされるという。

今年度も、キリスト教大学に着任された新任教員を対象に研修会が行われた。キリスト教を教育の理念とする大学において、私たちは何を大切にすべきなのだろうか。教育同盟理事長・立教大学総長の西原廉太先生よりご講演を伺い、この課題を共有することができた。

最初に、西原先生はキリスト教大学に与えられた使命として、真理を探究することの必要性を説かれた。その真理は、絶対的な揺るぎない答えとしてそこにあるものではなく、我々は旅人のように真理を求め続けなければならない。12〜13世紀に始まったヨーロッパの大学では、神学・医学・法学の分野において、これらの理性的な研究成果が人びとの痛みに寄り添うものとして生かされるように求められていた。



司会・山下智子氏
(同志社女子大学)



西原廉太氏

このような貴重な示唆を与えられた講演に続いて行われたグループ討議では、それぞれの大学の現状報告や、キリスト教大学であるがゆえの課題や悩みなどを持ち寄りながら、活発な意見交換が行われた。この有意義な学びと交わりの時が共有されたことに心から感謝しつつ、それぞれのキリスト教大学における真理の探究が豊かに実ることを期待したい。

続いて行われたグループ討議では、それぞれの大学の現状報告や、キリスト教大学であるがゆえの課題や悩みなどを持ち寄りながら、活発な意見交換が行われた。この有意義な学びと交わりの時が共有されたことに心から感謝しつつ、それぞれのキリスト教大学における真理の探究が豊かに実ることを期待したい。

東北・北海道地区 第10回 新任教師研修会

キリスト教学校で働くこと

9月1日(月)、東北学院中学校・高等学校にて開催(参加者16名)

開会礼拝は、そのまます学校礼拝に合流し礼拝は松井浩樹宗教主任が担当しました。マタイによる福音書24章の「忠実な僕と悪い僕」から、確かな終わりに向かって歩み続ける私たちだからこそ、どう生きるかが問われ、



松井浩樹氏



会場の東北学院中学校・高等学校と礼拝堂



赴任3年未満の教師が参加



会場のランパス記念礼拝堂

関西地区 第66回 大学部会研究集会

キリスト教学校とボランティア

して、真摯に教育活動に向き合おうとする私たちであると思うのです。松井浩樹(東北学院中学校・高等学校宗教主任)

活動の意義を振り返り、今後の展望を共有することを目的としました。特に、今年は阪神・淡路大震災から30年を迎える節目に当たり、震災を契機に設立された関西学院大学のボランティア活動を学ぶ講演会が、2日間にわたり開かれました。



岡 秀和氏



関 嘉寛氏

古屋学院大学の司会による情報交換会が行われ、講演者を交えた活発な意見交換が続きまし

● 公募

※採用予定日はすべて26年4月1日です。
※詳細は各校HP又は同加盟HP公募欄の募集要項をご覧ください。
▽四国学院大学
▽現代教養学部

大阪女子学院大学、関西地区大学部会委員

朴 賢淑
「寄り添い」がキリスト教学校の理念と深く結びついていることが強調されました。その後、神山美奈子氏(名古屋学院大学)の司会による情報交換会が行われ、講演者を交えた活発な意見交換が続きまし

2日目は、中野敬一氏(神戸女子学院大学学長)の司会のもと、参加者が三つの分団に分かれて討議を行い、全体報告を通して各校の取り組みと課題を共有しました。閉会礼拝では、落合建仁氏(委員長、金城学院大学)が説教「何も持たずに」を語られ、イエス・キリストによる弟子たちの派遣の姿に重ねて、私たちの使命が新たに示されました。

今回はボランティア活動を通してキリスト教学校の使命を再確認し、連帯を深める貴重な機会となりました。会場校および関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

<行事予定> ※予定は変更することがあります (HP随時更新中)	
11/7(金)~8(土)	第67回学校代表者協議会 (青山学院)
11/22(土)	キリスト教学校教育懇談会 第23回講演会(オンライン)
11/24(月・休)	第11回キリスト教看護教育 推進会議 (三育学院大学看護学部)
2026年	
1/16(金)~17(土)	第68回小学校代表者研修会 (西南学院小学校／ 長崎市視察)
6/5(金)~6(土)	第114回定時総会 (沖縄キリスト教学院)

▽同同志社女子中学校・高等学校
職種Ⅱ保健体育科 専任教員 1名
▽青山学院大学系属浦和ルーテル学院中学校・高等学校
職種Ⅱ①養護②家庭科 常勤講師 各1名
▽青山学院横浜英和小学校
職種Ⅱ全科(担任)育休代替教員 若干名
▽東京神学大学
職種Ⅱ正職員 1名
▽明治学院中学校・東村山高等学校
職種Ⅱ保健体育科 非常勤講師 1名
▽四国学院大学
職種Ⅱ事務職員 1名

第11回
全国事務局長・事務長会議経営改革への新たな試み
——キリスト教学校の未来を拓く——9月5日(金)～6日
(土)、福岡女学院大学
日佐キャンパスにて
開催(参加者33名)本会議は、キリスト
教学校が建学の精神を
実現するために、事務
局トップが現状と課題を見据え、他校の事例
に学びながら自校の新
たな取り組みへとつな
げることを目的として
います。少子化の進行
と学校間競争の激化に
直面する中、各法人は平安女学院
創立150周年平安女学院は187
5年、米国聖公会の宣
教師により大阪の川口
居留地の地に創立され
ました。本学院は大学
・高等学校・中学校・認
定こども園を擁し、キ
リスト教主義に基づく
教育を使命として歩み
続け、このたび創立1
50周年を迎えること
ができました。長きに
わたり支えてくださっ
た多くの皆様に、心よ

創立150周年式典の様子

り感謝申し上げます。
この節目の年を記念
し、本年1月21日には
平安女学院中学校高等
学校体育館にて「平安
女学院創立150周年
記念式典」を挙行しま
した。関係諸学校・機
関・企業の皆様、そし
て同窓生の皆様など約
800名にご臨席を賜
り、同窓会総会や記念
講演会も行われるな
ど、学院の歴史と未来これまでにない経営改
革を求められていま
す。今回は、改革に挑
み成果を上げることが
未来を切り拓く道であ
るとの認識から、先行
事例の紹介や情報交換
を行いました。
初日は、星野薫実行
委員長(フェリス女学
院事務局長)による開
会礼拝、福岡女学院・
守山恵子院長の会場校
挨拶に続き、基調講演
として2024年にイ
ンターナショナル小学部を開校した九州ルー
テル学院大学の松本充
右学長が「新しいチャ
レンジとしてのルーテ
ルインター小開校と将
来展望」と題し講演し
ていただきました。同大学は1997年
に短期大学から大学へ
と改組・転換しまし
た。当初は定員割れが
続く厳しい状況にあり
ましたが、その後、様
々な取り組みを重ね、
現在では定員を上回る
学生を受け入れるまで
に回復しています。そ
の歩みの中で、どのよ
うな工夫や努力がなさ
れたのか。また、小学
部をわずか1年という
短期間で開設するまでに至った数々の苦労話
について伺うことがで
き、大変印象深く心に
残りました。続いて「改革の事
例」として、香蘭女学
校・武藤孝宏事務長が
「校務改革の課題取り
組みについて」、茨城
キリスト教学園・川又
貴志事務局長が「中期
経営計画からの改革」

ギール記念講堂(事例発表)

と題して事例を紹介し
ました。その後、6グ
ループに分かれ、各校
の経営改革をテーマに
活発な討議と情報交換
が行われました。夕刻には福岡女学院
の施設見学が行われ、
夜は近隣会場で情報交
換会が開かれ、交流と
親睦を深めました。
2日目は、宇田川篤

全体会(大学4号館)



記念誌表紙

を共に分かち合う大変
意義深いひとときとな
りました。また、記念事業の一
環として、今秋には創
立150周年記念誌を
刊行します。本誌に
は、本学院の歩みや教育の実践、さらに周年
に際して実施した行事
の記録を収め、次代を
担う若い世代ならびに
学院を支える教職員・
関係者にとって貴重な
礎となることを願って
おります。本学院の歴史には、
多くの困難な時期があ
りました。そのような
中でも、私たちは、学
生・生徒・園児一人ひ
とりを大切にし、その
学びと成長を支援する
ことを重視してまいり
ました。私たちの小さ
な学校には、大きな学校では実現が難しい人
間的な教育環境があり
ます。それを誇りとし
て受け継ぎ、今日に至
っております。
今後さらに少子化が
進み、生産性や効率化
が強く求められる日本
社会にあっても、本学
院の教育はこれまで以
上に輝きを増すものと
確信しております。こ
の思いを胸に、私たち
は健全な学院運営に努
めながら、150周年
のその先へ建学の精神
を伝えるべく、なおい
っそう努力してまいり
たいと考えておりま
す。どうか今後とも、
皆様のご支援とご協力
を賜りますようお願い
申し上げます。
毛利憲一
(平安女学院 理事長)実行委員(恵泉
女学院事務局
長)による朝礼
拝から始まり、
前日と同様に分
団討議・情報交
換が行われまし
た。続く全体会
では、各グルー
プの討議内容が
報告され、参加
者全員で情報を
共有しました。最後にありますが、
事前準備や当日の運営
にご尽力いただいた福
岡女学院の皆さまに深
く感謝申し上げます。櫻井和夫
〈九州ルーテル学院事務
局長、全国事務局長・事
務長会議実行委員〉

2025年全国広報委員会

9月15日(月・休)

に全国広報委員会が教
育同盟事務局会議室で
開催されました(オン
ライン併用)。広報担
当理事、全国委員7
名、実務委員3名、事
務局2名の計13名が参
加し、昨年来の活動の
振り返りと今後の機関
紙製作・広報活動につ
いて協議しました。今後の機関紙の特集
案も検討し、戦後80年
である今年の取り組み
をはじめ、改めて平和
教育を取り上げ、各校
の活動のヒントとなる
ような事例紹介を来年
掲載することになりま
した。秋以降、加盟校
の皆様にアンケートを
お願いする予定です。豊川慎委員長(関東
学院)の開会祈禱、2
024年度事業報告及
び2025年度事業計
画の確認に続き、各地
区でのアンケートに基
づいた「キリスト教学
校教育」紙に対する評
価や要望が報告されま
した。本年4月号から是非ご協力ください。
2027年度に教育
同盟ホームページの改
訂を検討することも報
告され、「研修会や教
育活動に関する情報を
より手に入れやすくす
る」ことを目指した、
プロジェクト立ち上げ
も説明されました。文化祭の賑わいも一
段落です。活気ある学
生・生徒の姿に元気を
もらいました。事務局
だより色づく木々に秋の深
まりを感じるこの頃で
す。街では早くもクリ
スマスの準備が始まり
ました。賑わいの中で
も、心静かに主のご降
誕を待ち望むひととき
となりますように。季
節の変わり目、皆様ど
うぞご愛ください。
事務局長平和の
種まき

佐々木康子

「義の実は、平和を実現する人たちによつて、平和のうちに蒔かれるのです。」
(ヤコブの手紙3章18節〈新共同訳〉)創立者である三井高維先生の建学の精神
「世界を心に入れた人、平和を作りだす人の
育成」を掲げ、啓明学園は創立85周年を迎え
ました。キリストの教えによる人格教育を守り、
時代をくぐり抜けてきた先駆者の尽力と、神様の
大いなる祝福に感謝しています。初等学校では毎
朝児童と教員が一堂に会し、祈りと賛美と聖書の
言葉で一日をスタートさせます。礼拝には毎月の
テーマがあり、それに則した聖書メッセージを聞
きます。2学期初め9月のテーマは「平和」。聖書の
授業でマタイによる福音書5章9節など平和に
関する箇所を読み込みました。そこで立ち止ま
ったのは冒頭の御言葉の「義の実」についてで
す。低学年では「何の実?」「木の実?」「美味い
実?」と思いつくまま話を交わし「何か良い物か
な。」となります。しかし高学年では「義の実」のてが問題です。義とは何かと問い合います。
意味としては(物事や行動が良い、正しいと
される概念)ですが、その正しさを主張する
主体が人間である以上、相手と自分の正しさが
食い違い対立するという現実を子どもたちは
知っています。日常でも現在起こっている
世界の戦争紛争でも思い知らされています。
そんな中、讃美歌「神の国と神の義」(初等
学校授業チャイムメロディ)を思い出して「こ
の義は神の義ですか?」と気づく子がいました。
平和のために蒔く実は、自分の考える義
の実ではなく神の義の実であることに導かれた
のです。そして「霊の結ぶ実は愛であり、喜
び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、
節制です。」(ガラテヤの信徒への手紙5
章22,23節)の御言葉を読み心に留めました。
さて11月のテーマは「自然のめぐみ」で
す。神様がお造りになった自然界の実りのよ
うに、わたしたちが受けた神の義の実が、人
と人との間に蒔かれ豊かに実り、平和を実現
することができるようお願い祈ります。

〈啓明学園初等学校 聖書科教諭〉